斎藤百合の生涯

70年前の斎藤百合の言葉

「その国の弱者が、どう扱われるかによって、その国の文化の程度を計ることができる。」

今、映像のなかで、力強くよみがえる。

演出 渋谷昶子　スタッフ　撮影/重枝昭典
録音/岡本立洋　照明/石川喜昭　音楽/原 正美

出演　斎藤美和（斎藤百合三女・劇団民藝）
証言者（百合ゆかりの人達）　盲目の女性たち

企画・製作/「斎藤百合の生涯」映画製作委員会©
代表者 秋山ちえ子

芸術文化振興基金助成事業

題字/泉川治二　絵/藤田忠夫

鏡のない家に光あふれ

斎藤百合の生涯

映像化の動機

斎藤美和（斎藤百合三女・劇団民藝）

1994年秋、豊島区教育委員会の企画で「斎藤百合の生涯」の講演を依頼された。久し振りに雑司ヶ谷へ出かけると、忽ち私の心はやすらぎと懐しさに満ち溢れた。雑司ヶ谷は戦災にあってはいるものの私の子供時代の佇まいが色濃く残っている。寄りかかれだ受け止めてくれるような感触があった。三回に亘る講演は大きな反響があった。私は思いたった。母の生涯を映像化しようと。斎藤百合が雑司ヶ谷に没して50年がすぎた。戦争は障害を持つ人々を置き去りにし、むごく、悲惨に犠牲を強いた。盲女子の教育に生涯を捧げた斎藤百合、戦争に押しつぶされまいとした母の苦斗のあとが、50年を経て私の胸中にまざまざと浮ぶ。

斎藤百合
（47才 1937年頃）

いま、よみがえる百合の思想

演出　**渋谷昶子**

盲目の女性、斎藤百合は、すでに70年前に福祉事業の理念を「人間の尊重」「平等」と位置づけました。百合は1891年に生まれ、3才で失明しますが、天性の明るさと努力で障害をのりこえ、結婚し、4人の子を育てながら、東京女子大第1期生となります。盲目の女性に、「目が見えなくとも、女性としてあるがままに生きていける社会を」とその地位向上をめざし、女性視覚障害者の教育に生涯をかけました。この百合のたくましい生き方を共に過ごし成長した娘美和が、女優として母百合の強烈な生き方を再現します。また百合を敬愛した人々と美和との対話。多くの資料を通して、百合の思想「その国の弱者がどう扱われるかによって、その国の文化の程度を計ることができる」が力強くよみがえってきます。

この映画が、障害者への励ましとなることに止まらず、21世紀を共に生きる人々が福祉社会に向って歩むための指針となることを願います。

協力
整音/福島音響　タイトル/たくみ映画
日本コダック株式会社　ソニーPCL株式会社
豊島区　全国農村映画協会

この映画は、全国の
斎藤百合を敬愛する方たちの
ご支援とご協力で
完成いたしました。

販売価格
16ミリ・カラー　59分――――¥250,000
貸出料　1日――――¥100,000

ビデオ（VHS）カラー　59分――¥8,000

お問合せ
「斎藤百合の生涯」映画製作委員会事務局
〒169　東京都新宿区高田馬場1-23-4
社会福祉法人　日本点字図書館内　佐藤真平
TEL.03-3209-0241　FAX.03-3204-5641